



報道関係各位

平成 28 年 1 月 28 日

がんに立ち向かい、人々に希望や勇気を与えるサバイバー(がん経験者)の代表

2016 'Global Heroes of Hope' (希望のヒーロー) 日本から 2 人受賞

「ヒーローズ・オブ・ホープ」は、アメリカ対がん協会 (ACS) から認定される荣誉ある賞です。人々に希望や勇気を与え、前向きにがん立ち向かうサバイバー(がん経験者)の代表として、リレー・フォー・ライフ (RFL) に参加する世界各国から選ばれます。日本では、公益財団法人日本対がん協会が ACS に候補者を推薦し、本年度は全世界から 26 人が選出され、日本からは小渡章好さん (RFLJ2015 八戸実行委員長) と、時森由佳さん (RFLJ 中四国ブロックスタッフ) が選出されました。今後も日本対がん協会とともにがん征圧を訴え、ご自身のがん体験をさまざまな機会でも共有し、RFL を広めていく活動の先頭に立っていただきます。

■小渡章好(こわたり・のぶよし)さん■

65 歳のときに大腸がんを診断され、地域でがんがタブー視され、多くの人が偏見を恐れ一人でがん立ち向かっている現実を知る。自身の経験から、がんを乗り越えるためにはサバイバーとケアギバー(支援者)が、適切な情報や知識を得ることが重要であることを知り、「次の世代のためにも、がんに対する偏見のない地域社会を作りたい」と 2013 年、実行委員長として RFLJ2013 八戸を青森県で初開催する。現在は地域でのがん啓発活動にも取り組む。

■時森由佳(ときもり・ゆか)さん■

34 歳で乳がん、39 歳で肺転移と診断される。苦しい治療で生活が一変し「暗闇の中にいるような」生活を送る中、RFLJ2009 広島に参加。サバイバーの少年が一生懸命走る姿を見て「私にもできることをやろう」と勇気づけられる。それ以来 RFL に関わり、現在は日本対がん協会 RFLJ 中四国ブロックスタッフとして、広島だけでなく近隣の活動を支援。所属する患者会では、小中学生向けに命の大切さを伝える特別授業を行うなど精力的に活動する。

「リレー・フォー・ライフ (RFL)」とは

1985 年、一人の医師がトラックを 24 時間走り続け、アメリカ対がん協会への寄付を募りました。「がん患者は 24 時間、がんに向かい合っている」という想いを共有し支援するためでした。ともに歩き、語らうことで生きる勇気と希望を生み出したいというこの活動を代表するイベントは、2015 年は世界 25 カ国、約 6000 カ所で開催され、年間寄付は 470 億円を見込んでいます。日本では 47 ヶ所に広がっています。

日本では日本対がん協会が ACS からライセンス認可を受け、2006 年に茨城県つくば市で試行し、2007 年から本格的に開催しています。2016 年は 50 カ所以上でのイベント開催が予定されています。がん征圧・患者支援のための寄付を募るのが主目的ですが、患者・家族・支援者・医療者の方々の交流の場にもなっています。

本件に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

■日本対がん協会 リレー・フォー・ライフ・ジャパンチーム 担当:岡本 (電話 03-5218-4771)